

公益社団法人

全国学校栄養士協議会報

平成30年8月
第72号

発行

公益社団法人
全国学校栄養士協議会
電話 03 (6380) 4360全学栄ホームページ <http://www.zengakuei.or.jp/>

甚大な被害をもたらした、先の西日本豪雨による被災地の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

そんな中、8月2～3日の2日間にわたり、当初からの予定通り、被災地広島県において第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、開催されました。

広島県では、多くの教育機関や行政機関において復旧が最優先すべき状況であるにもかかわらず、この大会を予定通り開催するために関係方面からのご理解やご支援、ご尽力をいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

お陰様で、全国の栄養教諭・学校栄養職員は、シンポジウムや分科会での実践発表等を通して、各地の素晴らしい取り組みに学び、互いに研鑽を積むことができました。

私たちは、広島県の関係者の皆様がこの大会を開催するにあたり、ご尽力くださいました意味をしっかりと胸に刻み、本大会で学んだことを職務に生かしていかなければなりません。

新しい学習指導要領において、食育は、ますます重要なものとして具体的に記述されています。栄養教諭が中核となって行う食育を通して、どんな資質・能力を児童生徒に付けようとするのか、学校教育活動全体を通じた食育をカリキュラムマネジメントする力が求められます。

学校における食育の更なる充実を図るために、私たちは、教育活動における食育のあり方をしっかり見据え、専門職としての力を発揮しながら、職務に邁進していくことが必要です。



〈目次〉

- 日本PTAと食育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～3
- 清久利和食育調査官の新任のごあいさつ・・・・・・・・・・4
- 事務局長退任あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 新任紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 各部紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～7
- 第13回食育推進全国大会inおおいだ 出展報告・・・・・・・・・・7
- 第60回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会（岐阜県）の案内・・・・・・7
- 都道府県だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8



日本PTAと食育

公益社団法人 日本PTA全国協議会

副会長

北川 和也

副会長

大田 紀子

次世代のための食育活動

公益社団法人日本PTA全国協議会は、全国の公立小中学生の保護者と教職員で構成されている団体です。会員数約820万人を有する日本最大の社会教育関係団体であり、全国研究大会開催や調査研究、表彰事業や教育支援助成事業も行い、家庭・学校・地域の連携を深め、児童・生徒の健全育成の増進を図っています。また、広報紙や各分野での全国単位PTAの活動事例集をまとめた書籍発行を通じて、会員の学びの機会を提供するとともに、全国の子ども達の教育環境充実のため、古くは学校給食制定への積極的な働きかけを行い、近年では教職員定数加配問題についての配慮を求める活動を行っています。

日々子ども達に接している保護者としての視点で発言する機会が多くある中、農林水産省所管の食育推進評価専門委員会に参加しています。現在は第3次食育推進基本計画の重点課題「若い世代を中心とした食育の推進」についてのフォローアップ及び、第4次食育推進基本計画決定までのスケジュールについて議論を深めています。第1次から第3次まで、様々な取り組みの中で変遷はあるものの、基本的な方針に揺るぎはありません。これから親になる世代が食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践できるよう取り組んでいます。

農林水産省のホームページからダウンロードできる「啓発リーフレット」は、大変良い出来であり多くの方にぜひ読んでいただき、理解を深める一助になればと思っています。



<リーフレットダウンロード案内ページ>

http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/dai3_kihon_keikaku-2.pdf

食に関する保護者目線—「こ食」について

様々な学びに接する中で知った「こ食」という言葉が強く印象に残っています。「孤食」「個食」「固食」「粉食」「小食」「濃食」の6つに現代の食卓の問題点が凝縮されており、我が家を省みるとともに、多くの保護者に知ってもらい、これからの食を考える手立てにしていきたいと思っています。

共働きやひとり親は全国どの地域において、もはや珍しい家庭環境ではなく、家族が日々十分に時間をかけてコミュニケーションをとる事は難しくなっています。またコミュニケーションをとっていても、現代的な観点から家庭での教育とは違う力が働く事も少なくないと感じます。近年は中学生男子も“細い方がモテる”という観点で給食を残す事があるという話を聞くと、正論をおつけたところで理解は得にくいだろうと少し重い心持ちにもなります。

家庭教育が子どもへの教育の第一歩として、大きな役割を担い続ける事に変わりはありませんが、大人もまたその重責のために孤独になる事のないよう心がける必要があると考えます。保護者が学び続ける場と情報を発信する役割を、これまで以上にPTAが担っていくのも、食への取り組みのひとつと言えるのかもしれません。

PTAの取り組み

全国で行われているPTA活動でも食は様々な取り組みがされています。特に給食・お弁当については関心が高く、子ども達に好きな給食おかずアンケートをとって、上位人気おかずのレシピをPTA広報紙に記載したり、全国的に行われる「お弁当の日」に絡めてPTAイベントや講演会を行ったりと、様々な活動が行われています。日本PTA全国協議会では全国の単位PTAで制作されている広報紙のコンクールを行っており、その作品の数々に食に関する活動の報告が掲載されています。審査に携わる外部有識者からお褒めの言葉をいただく事も多く、ひとつひとつの学校で行われている地道な活動が、保護者の食への理解を深めるのに役立っているのではと感じます。



また、家庭教育振興活動の一環として「楽しい子育て全国キャンペーン～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～」として三行詩を募集し、優秀作品の表彰とそれを用いたカレンダーを製作販売しています。全国から15万点近くの応募をいただき、約半年をかけて審査を行ったのち、年末には表彰式を開催しています。今年も素晴らしい作品との出会いを楽しみながら、審査が進んでいます。この活動には文部科学省と厚生労働省とともに、早寝早起き朝ごはん全国協議会にも後援いただき、協議会副会長であり前述の食育推進評価専門委員会座長である服部幸應先生より、直接賞状の授与を行っていただいています。

短い詩文の数々は一瞬の情景に寄せた愛情に満ちたものであり、私達の子育てへの思いを新たにさせてくれます。中でも子ども達を目線から食卓の風景が多く綴られており、家族で囲む食卓の温かさや自分の好物が弁当に入っている時の嬉しさ、仕事で不在にしている保護者が作り置いている食事への

感謝等、ひとつひとつの風景から、食が子ども達的情绪を育むのに大きな役割を担っているのだと強く感じます。

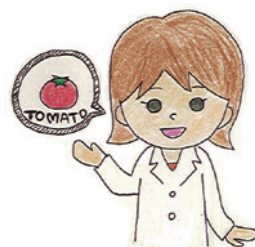
子ども達と栄養教諭・学校栄養職員

栄養教諭・学校栄養職員の先生方は、子ども達が初めて身近に接する食のプロフェッショナルであると思います。学校は家庭の事情如何に関わらず、すべからく学びが得られるべき場所です。家庭でどのような困難を抱えていても、学校での学びの数々はその子が将来を自ら切り開いていく大きな力になると考えれば、教科書を開く時間とともに、仲間と食事をする給食・お弁当の時間も、学びのひとつとして大切にしていってほしいと感じます。なぜしっかり食べる事が必要な、食習慣・生活習慣を整えた毎日が未来や次世代にどう繋がっていくのかといったシンプルな問いに、栄養教諭・学校栄養職員の専門的知識からの助言は今後益々必要とされるのではないのでしょうか。

また、子ども同士で交わされる情報は保護者から見えないことも多く、学校というコミュニティに近く接しているからこそその気付きがあるのではとも推察します。子育て世代の社会における責任が益々重くなっていく中、核家族的視点ではなく学校を中心に多くの大人が知恵を寄せ合い、関わりを持ち次世代を育成する視点が必要であると感じます。

栄養教諭・学校栄養職員の先生方には給食指導やお便り等、様々な形で日頃より子ども達と細やかにコミュニケーションを取っていただいております。心より感謝申し上げます。今後も専門的観点で食を通じてもたらされる喜びと、健康の素晴らしさを子ども達に教えていただきたいと思います。

そして、大切な子ども達の健康で明るい未来のため、保護者や地域と手を携え、ともに歩んでいただければ幸いです。皆様の更なるご活躍をお祈りしています。



食育調査官に清久利和先生が就任

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 食育調査官 清久 利和



このたび、食育調査官に就任しました清久利和と申します。私はこれまで、兵庫県の小中学校で教諭として、また、兵庫県教育委員会事務局、たつの市教育委員会事務局で指導主事、課長として勤務してきました。

特に、兵庫県教育委員会事務局では、体育保健課で食育担当指導主事として勤務し、学校における食育の手引書「食育実践プログラム」、食育実践事例集「食育ハンドブック」、デジタル食育教材「ひょうごの食べ物資料集」を、多くの方々のお力をお借りして作成し、県内の学校における食育推進を図って参りました。また、文部科学省の「スーパー食育スクール事業」を受託し、課題であった中学校における食育推進にも力を入れて参りました。

これらの取組を進める中で、子供たちに対する食育

は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むために、とても重要であるということを実感してきました。

現在、生活習慣の乱れ、偏った栄養摂取など食生活の乱れ等、様々な課題が顕在化しています。また、社会のグローバル化や情報化が急速に進展し社会が大きく変化し続ける中で、これからの学校においては、教員が指導力を発揮できる環境を整備し、チームとしての学校の力を向上させることが不可欠となっています。その中において、栄養教諭は、中核として食育を推進するために、教育に関する資質と栄養に関する専門性を生かして、様々な連携を図りつつ、子供たちの健康の保持増進に向け健全な食生活の実現に取り組んでいくことが求められています。

私も、学校における食育の推進と栄養教諭の配置促進について今まで以上に尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

退任のあいさつ

■ あんなこと、こんなこと・・・ ■

前事務局長 府内 隆稔

全学栄の仕事をするキッカケ、それは、ある日突然にやって来ました。S局長さんからの電話で、自宅に寛いでいた私は思わず何事かと思いましたが、次の台詞は、「ねえ、仕事があるんだけど手伝ってくれない。」でした。

前職をやめて、しばらくはのんびりしたいと考えていた私は、これには“まじ”で参ってしまいました。どうしようか、と一応近辺の者に尋ねたら、そっけなく、「どうせ閑なんだから」の言葉でした。

思うようにならないのが人生です。なるようになれの気持ちで、即決引き受けることにいたしました。

以来、7年間、自分ではよく持ちこたえたな、というのが卒直な感想です。それは3名のスタッフ、役員の方々のご支援ご協力の賜と思っております。

本会のめざすものは高いところにありますが、日々一歩でも近づくように努力を惜しまずやって行けば、何れは達成できるものと信じます。今後も関係者のご尽力に期待致します。

最後になりましたが、全学栄の仕事を通じた色々な方々との出会いと、講習会でのお話をこれからの自分の生き方に活かして行ければと考えています。

ご協力をいただいた都道府県代表者の方々、一緒に楽しく仕事をしていただいた3名のスタッフ、役員の方々に感謝を申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

新任の紹介

新理事紹介

玉井典子前理事の辞任に伴い、中部ブロックから推薦され、第45回の総会で選任されました。

中部ブロック(奈良県、兵庫県、和歌山県)

かみむら
上村

のぶえ
庸江

担当：渉外部

新事務局長紹介

第3回理事会で承認され、平成30年8月1日に就任いたしました。

(埼玉県出身、前理事)

すぎもと
杉本

しんご
眞吾

総務・運営部

総務・運営部は、会の運営に関する事項全般を所管します。

1 第45回定時総会

6月8日(金)、定時総会が行われ、平成29年度事業及び収支決算の報告、31年度正会員・賛助会員の入会金及び会費の件、理事の選任について審議等、すべて承認されました。

2 第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会

8月2日(木)・3日(金)、広島県広島市において、文部科学省、開催地の教育委員会とともに、学校における食育推進、栄養教諭・学校栄養職員の資質向上に向けて研究協議を行う全国大会を主催しました。

3 栄養教諭のためのカリキュラム検討委員会

平成29年度は、食の指導書「新しい食育 中学校第2編」を作成・配布しました。本書は、中学校における食育のカリキュラムプランを作成し、発達段階における指導内容と、具体的な指導展開例を掲載しています。

第2編では、新指導要領を踏まえて、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指し、授業研究・教材研究を行い、新学習指導要領に基づいた食育の考え方や取組、具体的な実践事例について分かりやすく掲載しています。

今年度は、給食時間における食育編を作成します。

4 食育月間事業

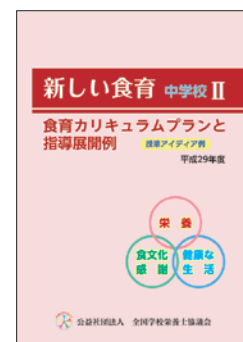
6月23日・24日、大分県大分市で開催された第13回食育推進全国大会への参加をはじめ、国の施策や他団体と連携して食育活動を行っています。

5 ホームページの充実

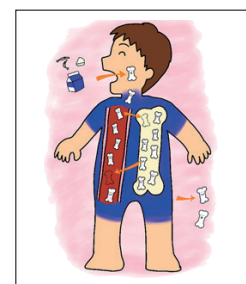
(<http://www.zengakuei.or.jp>)

本会事業の紹介や調査研究結果等を開示しています。会員専用のページのパスワードは、平成29年7月1日より変更になりました。ご不明な点は、代表者にお問い合わせください。

会員専用のページには、「新しい食育」等に使われている標語やイラストがダウンロードできるようになっています。是非ご活用下さい。



新しい食育 中学校Ⅱ



研究部

研究部は、会員の資質向上を図るための研究を行っています。

昨年度は、食物アレルギー対応を必要とする児童生徒が安心して楽しく食事が出来るように「ヒヤリハット事例から学ぶ食物アレルギー対応」を発行しました。会員に必要な情報を提供するために作成した冊子です。研修会などで活用してください。

1 食育推進実態調査

今、私たちに求められているのは、栄養教諭の配置効果を数値で示すことです。

平成26年度に総務省が行った「食育の推進に関するアンケート調査」は、朝食の欠食、共食、栄養バランスに配慮した食生活、食品ロス、伝統的な料理や作法、食品の安全性について尋ねられています。

このことを踏まえ、今年度は指導と評価の一体化を意識した食育推進実態調査について研究しています。

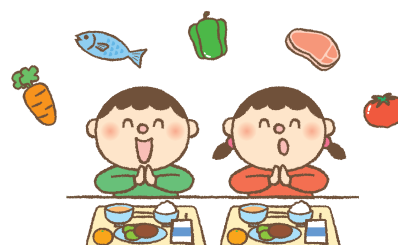
2 食育活動集(10月発行予定)

今年度も、昨年度全国で行われた食育活動を冊子にまとめています。

これまで発行した食育活動集は活用されているでしょうか。食育活動集から自分の学校でも出来ることを見つけて、学校給食週間中の行事や日頃の指導に活用してください。

3 研究推進助成事業

食育に関わる研究をするグループは1件に10万円の助成を行っています。昨年度研究助成を受けた岡山県、滋賀県、鹿児島県のグループの研究成果は、次号の会報でお伝えします。



研修部

研修部は各種研修会等の運営をしています。

1 学校給食夏季講習会

今年度で第54回を数える本研修会は、全国から約150人の参加がありました。

講習は、栄養教諭・学校栄養職員の役割、衛生管理、栄養管理、食物アレルギー対応、心理学、栄養士が注意すべき著作権と多岐にわたる内容で実施します。

またグループ討議は、小学校・中学校・共同調理場、特別支援学校・夜間定時制高校等規模別に合わせた15人グループに分かれ、現場での実践内容や課題解決に向けて討議を行います。

2 栄養教諭免許状更新講習会

9月から2回にわたって開催いたします。この講習会では、栄養教諭免許状更新に必要な選択領域18時間の単位が取得できます

3 食育推進講習会キャリアコース New

今年度3回の食育講習会のうち、1回をキャリアコースとしてミドルリーダーを対象に11月に3日間の日程で開催

します。1日目は「アレルギーのヒヤリ・ハットへの対策」「新学習指導要領と食育の評価の在り方」「食育のための調査方法・データ解析」を演題に喫緊の内容の講義、2日目はパソコンを用いて「データ解析」の演習と解析結果を論文としてまとめる方法を学び、最終日は発表後、指導をいただきます。

4 食育推進講習会一般コース

11月、12月に2回開催します。最新の情報を取り入れた講義を受講することができます。

グループワークでは、本協議会が作成した「新しい食育」小学校編、中学校編を活用して指導案を作成し、模擬授業をおこない、指導いただきます。多くの参加申し込みをお待ちしております。

5 研究授業方式による衛生管理研究会

各県で取り組んだ衛生管理研究会の事例をまとめています。全国の様々な給食調理場で工夫されている衛生管理の実例を、いろいろな観点で分析しながら皆さんに紹介します。



渉 外 部

1 機関誌「公益社団法人全国学校栄養士協議会報」を年2回発行

2 学校給食用食品の研究開発

(1) 災害時における非常食の開発

「救給カレー」「救給根菜汁」「救給コーンポタージュ(玄米入り)」は、ライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として開発し、防災の日の給食や自然災害などの不測の事態にも、使用されています。今年度「救給五目ごはん」を開発中です。

(2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発など行っています。

3 関係団体への協力

全学栄製品及び全学栄すいせん製品等の食材を活用した調理研究事業に参画し、学校給食の献立充実のための調理講習会や親子料理教室の取りまとめを行います。会員の資質向上につながる取組です。今まで調理講習会等していない都道府県はぜひ計画してください。

「防災を学校給食から～救給カレー活用事例～」

多良木町立多良木小学校 栄養教諭 瓜生 由美子
(前熊本県学校栄養士協議会副会長)

平成28年4月、熊本地震が発生し、ライフラインが復旧されるまでの約一週間、震源地に近い学校では、簡易給食に救給カレーを提供しました。全国各地から、県内の子どもたちのために救給カレーを届けていただいた関係者、ならびに会員のみなさまに深く感謝します。

【避難所での課題を防災に向けた食育に】

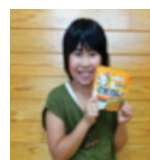
熊本地震の時、勤務地は比較的被災が少なかった地域で、実際の被害について子どもたちの多くは詳しく知らないという状況がありました。そこで、私が支援に携わったことを、授業や集会等で話をする機会を作りました。実際に避難所でアセスメントすると、避難する時に家に入れ歯を置いてきて、固い食べ物が食べづらく、食事に困っている高齢者の方、食物アレルギーで支援物資が食べられない方、糖尿病や腎臓疾患を患っている方など災害時においても、食事に配慮が必要な場合が想定されます。家族それぞれの年代や体調に合わせた各家庭での食事の備えが大事であり、「自助・共助・公助」の「自助」にあたる家庭での食事の備えの重要性を学校の食育の中で担うことができるのではないかと考えます。

平成30年1月17日の防災とボランティアの日に「非常食体験給食」を(前任の)人吉市で実施したところ、保護者から「子どもが給食で食べた救給カレーを、家での非常食にしたい」と、問い合わせがありました。また、報道を見た小児科の先生からは、「食物アレルギーにも配慮している救給カレーに感心した。」と学校給食の非常食についても理解が深まりました。災害時の食事の備えを、学校給食から家庭・

平成30年1月17日の献立

「救給カレー、野菜スープ、みかん、牛乳」

※中学生は「いきなり団子」も(人吉市)



多良木町学校給食センターの非常食(H30)

○救給カレー(150gと250g)

○乾パン

○支援学校ミキサー食用の乾燥米飯と水

地域に啓発していくことも大切だと感じています。

今、勤務している多良木町学校給食センターでは小学校4校、中学校1校、支援学校1校の6校分の給食を作っています。2年前、大雪により給食の調理ができない日があり、その時の教訓から乾パンなどを備蓄しています。今年度は、

救給カレーも導入することになりました。9月の防災月間に、防災教育として救給カレーなど非常食を取り入れた給食を実施します。今後も、震災後の復興支援を行いながら防災に対する意識を高め、栄養教諭として防災教育にも携わっていききたいと思います。

第13回 食育推進全国大会inおおいた 出展報告

みんなでかたろう 食育のすすめ
～うまい！楽しい！元気な大分～

(公社)全国学校栄養士協議会 大分県代表者 衛藤 ひろ子

今年で13回目を迎えた食育推進全国大会が、大分県大分市に於いて6月23日(土)24日(日)に開催されました。JR大分駅とホルトホール大分を会場として、約100団体によるブースや講演会、ステージイベントなどが繰り広げられ、2日間で3万3500人の来場がありました。

①栄養クイズと資料掲示

『子どもたちへの食育の更なる充実をめざして』をテーマとし、資料掲示と栄養クイズを行いました。特に栄養クイズは、子どもたちの長い列ができるほどの大盛況でした。



配られた金メダル

これからも身近な食品に関心を持ち、健康な食生活を送ってほしいと願っています。

②大分県の食育活動の紹介

自分の好きな飲みものの砂糖の量を知らせるため、自動販売機型の媒体を作り紹介しました。

親子でクイズに
チャレンジ!



かぼにゃん
自動販売機

第60回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会(岐阜県)の案内

第60回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会は、2019年8月7日(水)8日(木)の日程で、岐阜県岐阜市において開催されます。

会場は、鶺鴒いが行われる長良川沿いに立つ「長良川国際会議場」です。



記念品のお知らせ

開催にあたり、岐阜県らしいこだわりの記念品を準備いたしました。ご協力よろしくお願いいたします。

- | | |
|---------------------|--------|
| ① 鉄カルCD給食レシピ集 | 1,000円 |
| ② 携帯用ミニはさみ(3色) | 500円 |
| ③ さるぼぼ給食当番付箋ブック | 600円 |
| ④ 柊コースター 3枚セット(松竹梅) | 2,000円 |
| ⑤ 食品サンプルマグネット2種セット | 1,300円 |
| ⑥ 東濃ひのきカッティングボード(S) | 1,300円 |
| 〃 (M) | 3,000円 |

岐阜ではこの時期、長良川で夜ごと行われる鶺鴒いがお勧めです。小京都と言われる郡上八幡では、土日に郡上おどりを楽しむことができます。また、日本三大温泉のひとつである下呂温泉や世界遺産である合掌造りの白川村、「君の名は。」の聖地として知られる飛騨古川、古い町並みの高山、現在NHK朝ドラ「半分、青い」の舞台にもなっている東濃の岩村町など、観光スポットがてんこ盛りです。

天然あゆ料理に飛騨牛料理や五平餅など、おいしい食べものもいっぱいです。2019年の夏は、岐阜にぜひ来ていただき、見て食べて、温泉で癒やされてみませんか？

心よりお待ち申し上げます。



*記念品の詳細・問い合わせや申し込みは、各都道府県代表者をお願いします。

都道府県だより

北海道学校栄養士協議会の取組

北海道学校栄養士協議会は北海道の栄養教諭・学校栄養職員がすべて所属する「北海道学校給食研究協議会・栄養部会」の推進幹事を兼任することで、相互に連携しながら研究を進めています。道内を14地区に分割し、その地区ごとに授業研究や食育に関わる講演会、料理講習会など様々な取組を行っています。北海道全体の研修として、毎年冬休み中に2日間、冬季研修会を開催しています。昨年度は旭山動物園園長 坂東元様、福岡教育大学 教授 脇田哲郎様、文部科学省学校給食調査官 齊藤るみ様にご講演をいただきました。また、2地区から食育の実践発表を行い、指導主事の指導助言をもらい、実り多い研修会となりました。

そして、北海道乳業協会が主催する「乳和食推進協議会」や北海道庁が主催の「どさんこ食育推進協議会」など色々な外部団体に参画し、食育の推進の一役をになっています。

さらに、本会では、新製品開発推進幹事を設置し、地場産物を活用して、今までに白花豆コロケや牛乳プリンなどを開発してきました。子どもたちのために引き続き取り組んでいきます。

これからも、栄養教諭・学校栄養職員の資質向上のため、各機関と連携し、食育を推進していきたいと思っています。

北海道代表 小野寺 由希恵

わたしたちの取組紹介

立山連峰から流れる雪解け水は富山平野を潤し、豊かな土地から収穫される米や野菜等は、児童生徒の成長の糧となっています。天然のいけすと呼ばれる富山湾は、ホタルイカや白エビ、ブリ等の豊富な魚介類の宝庫です。学校給食ではこのような地域の地場産物を使い、「ホタルイカのポンポン揚げ」や「白エビのかき揚げ」等が実施されています。毎年行われる学校給食調理発表会では、地場産物だけでなく、伝統料理等も紹介されます。報恩講（仏教各宗派で、毎年行われる宗祖への恩徳を謝す法会）で食べられてきた「いとこ煮」や保存用の干しナスや大根、山菜で作られた料理には、先人の知恵や食に感謝する心が込められています。不足しがちな食材や栄養素を補いながら、児童生徒が食べやすいように工夫された献立は、11月の「越中とやま食の王国フェスタ」で展示し、最近の学校給食として紹介しました。給食は栄養補給という目的だけでなく、食育の生きた教

材として作られていることを来場者に説明することで、学校給食への理解につなげています。

また、毎年各地区の研究テーマを「栄養管理」、「衛生管理」、「食に関する指導」の3分野から選び、研究を進めています。2月には、一年間の取組の成果や効果的であった指導の内容等について事例発表を行い、知識や情報を共有化することで、会員一人一人の資質向上を図っています。

今年度より「富山県栄養教諭・学校栄養職員研究会」は「学校栄養教諭等研究会」に名称を変更しました。これまで個々が培ってきたスキルを生かし、今後も研修会等を通して各自の資質向上に努め、児童生徒が生涯にわたって健康的な食生活を過ごすことができるよう、食のコーディネーターとして、食育の推進に取組んでいきたいと思っています。

富山県代表 堂本美智世

鹿児島をまるごと味わう給食と食育の推進

鹿児島県は、昨年の黒牛日本一をはじめ、その他黒豚や農水産物が非常に豊かな県です。この豊かな食材を活用し、子供達に特産物や郷土料理、産業への関心をもたせ、自らの健康管理や感謝の心をはぐくむ食育を推進しています。学校・家庭・地域の連携を深め、学校給食の充実を図るために、平成14年度より、県教育委員会と学校栄養士協議会の主催により、「鹿児島をまるごと味わう学校給食」を実施しています。これは、1月の給食週間中に、全て県内産の食材を使用した献立の日を設定するものです。あわせて学校給食への理解を深めてもらうために、各地区において「学校給食展」も開催しています。

また、「児童生徒の食生活等実態調査」を昭和55年度から30年以上にわたって行っています。平成22年

度までは5年ごとに、その後、常に新しい情報や児童生徒の実態を把握し、指導に当たるべきであるという反省に基づき、3年ごとの実施に変更しました。

会員の資質向上を図る目的で、年1回県内外の講師を招聘し研修会を開催しご指導をいただいています。さらに、各学期1回土曜日に「食育研修会」と題して、県教育委員会指導講話、模擬授業による研究協議、給食管理システムの活用法など、栄養教諭としてのタイムリーな情報を共有できるように、研修内容を検討し実施しています。

今後も会員と連携し努力を重ねていきます。

鹿児島県代表 市来 さつき